

令和2年度 学校評価（最終評価）

徳島県立池田支援学校

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評 価		学校関係者の意見	次年度に残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)		
1 児童生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	<p>「小・中・高がつながる」学びの推進</p> <p>【小学部】 (1) 身体づくりの学習を充実し、学習効果の向上を図る。</p> <p>【中学部】 (2) 協働して活動するために、必要なマナーやルールの学習を推進する。</p> <p>【高等部】 (3) 授業で学んだことを活かして、地域と連携した活動を実施する。</p>	<p>(1)-1 身体の使い方や運動スキルを児童一人が1つ目標として取り組む。</p> <p>(1)-2 5月のパワーアップにおいて持久走を実施し、指導前の評価を行う。</p> <p>(2) 授業の中で協働して活動するために、必要なマナーやルールの指導について学部会で検討する。</p> <p>(3) 地域連携活動を授業年間計画に位置づける。</p>	<p>(1)-1 獲得したスキル等を活用してできるようになった他の学習(活動)が一人1つ以上になる。</p> <p>(1)-2 12月の体力作り月間において、連続して走ることでできる時間が伸びている児童が8割以上となる。</p> <p>(2) 授業の中で協働して活動するために、必要なルールやマナーの指導について、年間4回以上検討会を実施する。</p> <p>(3) 今年度実施の地域貢献活動を含めて13回以上実施する。</p>	<p>(1)-1 児童25名について、1つ以上の目標を設定し取り組んだ。全員が目標を達成することができ、生活や学習面への効果を確認した。</p> <p>(1)-2 授業開始が6月となり持久走の実施は適さないと判断し、事前評価は10月21日、最終評価を12月16日に行った。体力作りの期間中は近隣公園側道でのランニングを5回実施することができた。各学級での取組の成果もあり、20名の参加者のうち17名(85%)が短期間に記録を伸ばすことができた。</p> <p>(2) 年度初め、7月、10月、12月、1月、3月(予定)に、授業におけるルールを学部会で検討、共有し、学部集会で生徒に周知した。各授業において、「時間を守る(チャイムが鳴り終わるまでに教室移動を完了すること・着席しておくこと)」、「あいさつ(授業始めと終わりのあいさつ時には、先言後礼で『おねがいます』『ありがとうございます』と言うこと)」について指導を進めてきた。各学級、各授業において指導を徹底することができ、「時間を守る(チャイムが鳴り終わるまでに教室移動を完了すること・着席しておくこと)」については、ほぼ100%目標を達成することができた。あいさつについては、生徒の実態に沿った柔軟な指導で、意識して挨拶することができるようになった。</p> <p>(3) 各授業の年間計画に位置づけて地域貢献活動を計15回実施した。作業学習の農耕班では「藍の刈り取り貢献」、「そばの脱穀作業貢献」、東みよし町出身生徒による「法市農村舞台設置貢献」、縫製班では、阿波池田駅への「手作りざぶとん</p>	<p>【A】</p> <p>各学部とも、概ね目標を達成できた。小学部では、生活するために必要な身体の基礎的な力の向上に取り組む、中学部では、協力するために必要なルールを学び、高等部では、学校での学習を活かした貢献活動を行い、学んだ力を確かなものにすることができた。進路指導課における施設見学や特別活動課での学部を超えた集団活動の経験等が、感染症の影響でできなかった。しかしiPadを活用したり、研修や展示等に変えたり、感染症対策を行いながら工夫して実施することができた。児童生徒の自尊心を育むために、人権教育課における研修やアンケートの実施により、児童生徒の変容とともに教員の意識も向上した。</p>	<p>(案)</p> <p>児童生徒の社会参加と職業的自立をめざし、学部間のつながりを意識して、「生活する力(小学部)」、「協力する力(中学部)」、「貢献する力(高等部)」の育成を図るとともに、学校で学んだことを実際の生活に広げ、活用できるように学習をすすめる必要がある。また、ポジティブな行動支援の視点を取り入れた教育活動を通して、児童生徒の自尊心を育む人権教育に取り組んでいきたい。</p>	

【進路指導課】

(4) 高等部卒業後の社会生活を知ることで、各学部に応じた積み上げられる進路指導の充実を図る。

(4)-1 全学部教員対象に卒業生が利用する施設の見学を実施する。

(4)-1 高等部卒業生の7割が利用している生活介護や就労継続支援 B 型の福祉サービスを扱う施設の見学を年間1回以上実施する。

贈呈」, 陶芸班・紙すき班による交通安全啓発の「無事にカエルプロジェクト」を実施した。また, ビルメンテナンス班では, 習得した技能を活かして「福祉施設内の清掃貢献」, 接客班では, 「三好市交流センター内アンテナショップ内」接客体験を実施した。

体育及び総合的な探求の時間では, 近隣施設との「ボッチャ交流」や「手作り石けん贈呈」を実施した。家庭科では, 三好市内のこども食堂に「手作りそばクッキー」を贈呈した。

事前事後の生徒アンケートの結果では, 85%の生徒が「地域貢献活動に参加してよかった」と答えた。92%の生徒が「別の機会にも参加したい」と答え, 生徒の意欲につながっている。

(4)-1 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため施設見学は実施できなかった。見学に変えて施設を紹介する校内研修を各学部毎に1回実施した。また, 施設を紹介する掲示物を学習発表会で展示し, 近隣施設の活動内容について紹介した。さらに, 進路に関する情報を提示するための「進路コーナー」を新設した。体験, 見学の機会は減少したが, それに変わるものとして児童・生徒, 保護者, 教員に向けて新しい情報発信の場を設けることができた。

(4)-2 福祉施設の活動内容をもとに進路学習で活用できる教材を作成する。

(4)-2 児童生徒の発達段階に応じた教材を3つ以上作成する。

(4)-2 近隣の福祉施設の活動内容をもとに進路学習で活用できる「クッキー作り, 袋詰め」「弁当盛り付け」「造花組立」の3つの教材を準備した。高等部の「作業学習」「職業」の授業を中心に活用し, 実際の活動内容などに近い作業を体験できる良い機会となっている。

人権意識を育てる児童生徒指導の充実

【特別活動・保健衛生課】

(5) 仲間作りをとおして人権意識を高める。

(5) 児童生徒が意欲的に楽しんで取り組める活動内容を企画する。

(5) 合同特活を年間6回実施し, 1回以上校内で発表の機会を設ける。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響により従来の授業形態での活動が困難である中, iPadを活用して児童生徒会の新役員を各学部で紹介することができた。また各学部に分かれて表現会を実施し, IKESHI やまびこコンサートでは地域の音楽バンドを招いて実施することができた。

	<p>【人権教育課】 (6) 自尊感情を高めるための教育活動を推進する。</p>	<p>(6)-1 自尊感情に関する人権教育研修会を開催する。</p> <p>(6)-2 対象とする場面を設定し、その中で児童生徒の自尊感情を高めるための指導を実施する。</p>	<p>(6)-1 年間1回以上、研修会を実施する。</p> <p>(6)-2 指導後のアンケートにおいて、児童生徒の変容がみられたとの回答が80%以上となる。</p>	<p>(6)-1 徳島県立総合教育センター特別支援・相談課指導主事樋口直樹氏を招聘し、「ポジティブな行動支援の考え方を生かした人権教育」のタイトルで研修会を実施した。子ども理解の基本や適切な行動を引き出す工夫について、演習も交えながら教職員間で理解を深めることができた。</p> <p>(6)-2 各学部で学習環境や児童生徒への関わり方を改善・工夫した指導を実施した。教職員が回答した指導後のアンケート調査から、指導前と比較して、児童生徒に変容がみられたとの回答が89%となった。</p>			
<p>2 教職員の専門性・資質・指導力の向上</p>	<p>危機管理体制の整備、安全・安心な学校づくりの推進 【生徒指導・施設課】 (1) 緊急時対応の際に教職員一人ひとりが適切かつ迅速に行動するために、必要な意識・技術の向上を図る。</p> <p>専門家等と連携した授業研究及び支援方法の改善 【研究課】 (2) 研修会をとおして、教職員の専門性の向上を図る。</p>	<p>(1)-1 不審者侵入時取るべき対応について、警察署等の指導の下、教職員を対象とした研修を実施する。</p> <p>(1)-2 児童生徒不明時の捜索に備えて、歩行または捜索訓練等を実施する。</p> <p>(2)-1 外部講師を招聘したポジティブな行動支援（PBS）研修会を開催する。</p> <p>(2)-2 経験年数に応じた研修会を、年間をとおして実施する。</p>	<p>(1)-1 教職員研修を年1回実施する。</p> <p>(1)-2 歩行訓練または捜索訓練を年2回実施する。</p> <p>(2)-1 研修会を、年間1回以上開催する。</p> <p>(2)-2 参加者を対象としたアンケートにおいて、「実践に生かすことができた」との回答が80%以上である。</p>	<p>(1)-1 三好警察署の方による、さすまたの正しい使用法と、不審者への適切な対応法についての教職員研修を8月に1回実施した。緊急時により適切な行動をとるための知識や技術を学ぶことができた。</p> <p>(1)-2 8月と11月の2回のそれぞれについて、全教員が学校近隣地区2カ所に分かれて歩行訓練を実施した。実際の捜索活動に備えて学校周辺地域の地理や危険場所等の確認を行うことができた。</p> <p>(2)-1 支援教育課と連携し、外部講師を招聘したポジティブな行動支援(PBS)研修会を3回実施した。ポジティブな行動支援の手法を生かした授業づくりや実践例を中心に基本的な支援の考え方について教職員間で共通理解を図ることができた。</p> <p>(2)-2 年間11回の教職員スキルアップ研修を実施した。参加者を対象としたアンケートで「実践にとっても生かすことができた」又は「実践に生かすことができた」との回答が95%以上であった。</p>	<p>【A】 児童生徒の実態や学校周辺の状況をより詳しく知ることにより、現実的な訓練を行うことができ、緊急時対応への意識向上を図ることができた。 また、外部講師を活用した研修や、若手教員が必要としている内容の研修を行うことにより、児童生徒理解や授業力のスキルアップを図ることができた。</p>		<p>安全安心な学校づくりのために「学校の新しい生活様式」をふまえた基本的な感染症対策を実施するとともに、引き続き、日々の業務に緊張感を持って臨み、日々の業務の中で必要な助言や支援を受けられる池田支援学校版メンター制を整え、教員のスキルアップに努めていく必要がある。</p>

<p>3 家庭・地域・関係機関との連携・協働をととした学校づくり</p>	<p>地域と連携した教育活動の推進</p> <p>【渉外課】 (1) PTA 役員や保護者の意見や提案を反映し PTA 活動の充実を図る。</p> <p>【情報教育課】 (2) 学校ホームページで、児童生徒の学習や行事の様子を発信し、保護者や地域住民への理解と啓発を促す。</p> <p>幼・小・中・高校等への相談・支援体制の充実 【支援教育課】 (3) 地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を促進し、相談支援に対応する校内リソースを整備、活用する。</p>	<p>(1) PTA 研修会や行事等で、保護者の意見や提案について、積極的に話し合い、実践できるようにする。</p> <p>(2) 各学部、各課で担当を決め、その担当をサポートすることで定期的に記事を掲載できるようにする。</p> <p>(3)-1 校内職員や外部の専門家を講師とした地域への公開研修会や公開授業を企画する。</p> <p>(3)-2 校内リソースの整備を行い、地域の相談支援に活用する。</p>	<p>(1) PTA 研修会の内容について検討し、保護者が楽しめる機会となる研修会を年間1回以上、実施する。</p> <p>(2) 各学部、各課の学習や行事に関する記事やその他学校からの情報発信し、ホームページのアクセス数において、年間5000回を上回る。</p> <p>(3)-1 PBS に関する公開研修会を美馬分校と情報交換をしながら開催する。</p> <p>(3)-2 巡回相談員や支援教育課員が巡回や研修等で iPad を5割以上活用する。</p>	<p>(1) 「PTA 研修会で取り上げて欲しい内容」等について、保護者アンケート(4/27)を実施し、保護者と教員へ結果報告(6/26)を行った。保護者の意見や希望を取り入れた学習発表会、授業参観、研修会を実施することができた。</p> <p>(2) 記事の書き方や写真挿入の方法等を伝えることで担当の定期的な記事掲載につながり、年間60以上の記事を掲載することができた。アクセス数は12万8千回を超えた。</p> <p>(3)-1 冬季に行う研修会に向けて情報交換をし、リモート形式で美馬分校と本校とで「地域公開オンライン研修会」開催した。 60名程が各所属場所からの参加となった。参加者からは、応用行動分析学の基礎的概念やポジティブな行動の視点からどう関わっていくかのヒントを得られることができた等の声が多く聞かれた。</p> <p>(3)-2 巡回相談員が助言の際に学習支援の教材、特別支援教育関連の書籍、検査の解釈などの紹介を iPad で提示し、5割以上活用することができた。 紹介した先生方からは視覚的に見やすく、書籍を購入する際の参考になったという声や特別支援学校で活用している教材を紹介してもらうことで所属校での教材作りの参考になったという声が多く聞かれた。</p>	<p>【A】</p> <p>渉外課のPTA 研修会においては、保護者の意見を積極的に取り入れて実施することができた。 情報教育課は、学校HPで学校行事を中心にタイムリーな情報提供を行い、地域に啓発することができた。 支援教育課は、公開研修会の開催や校内リソースの提供など、地域へセンター的機能を発揮することができた。</p>	<p>地域とともに成長する学校として、学校運営協議会(コミュニティスクール)を設置することにより、学校の目標や未来像を保護者や地域の方々、関係機関と共有し、連携・協働できる体制づくりを進めていきたい。</p>
--	---	--	---	--	--	--